

# 学校力向上に向けた「チーム潮小」の取組 ～積極的な学校改善の取組の推進～

稚内市立潮見が丘小学校 学級数 17 (校長 大島 朗)

## 1 はじめに

本校は、「明日も行きたい大好きな学校～安心できる居場所があり、力を伸ばすことができる学校」を経営方針、「あたりまえの継続が質の高いあたりまえへ」を重点に据え、学校・地域・家庭の連携を土台に教育活動を進めてきている。また、平成 30 年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校の指定を受け、全校が一つのチームとなった包括的な学校改善と人材育成に取り組んでいる。



## 2 昨年度の学校力向上に関する総合実践事業の取組の成果と課題を踏まえた重点の設定

昨年度、本校では「組織的な取組」をキーワードに、『主体的・対話的で深い学び』に視点を置いた授業改善と「つながりを大事にした教育活動の展開」を取組の柱に据えて学校力向上に向けた取組を進めてきた。

その成果として、授業における指導過程のスタンダード化や、地域等との連携・協働による教育活動の推進が図られ、児童の学習に対する意欲の向上や、保護者等の教育活動に対する理解の深まりが見られた。

一方、課題として、「社会や子どもの変化に対応した学校改善」「人材育成」「質の高い授業への改善」などが挙げられた。

そのため、今年度は「学校経営への参画意識」「子どもの学びの保障」「指導力の向上」などを重点に取組を進めていくこととした。

## 2 実践の概要

### (1) 教職員、保護者、地域住民との目標等の共有

#### ○ 学校の教育目標の改訂

学習指導要領全面実施を契機に、昭和 51 年度の開校時から続いてきた学校の教育目標を改訂した。改訂に当たっては、教職員、保護者、地域関係者を対象にアンケートを実施し、関係者の思いや願いを整理するとともに、社会の変化、学習指導要領改訂の趣旨、求められる子ども像などを踏まえ決定した。

#### ○ 社会の変化に対応したグランドデザインの改訂

教育目標の改訂に伴い、児童はもとより保護者や地域住民が目標の実現に向けた取組について理解を深めることができるよう、グランドデザインの見直しを行った。

「学校づくり」「学級づくり」「授業づくり」の視点は継続するとともに、新型コロナウイルス

**潮見が丘小学校 2020学校づくり構想**

**めざす学校**  
明日も行きたい大好きな学校～安心できる居場所があり、力を伸ばすことができる学校

【管内重点】子どもの未来保障 【校訓】思いやり **学力・自己肯定感** 【学校教育目標】(R2.4.1改定) しっかりと学び考える・おもいきり挑戦する みんなも自分も大切に

**力を伸ばす** **ユニバーサルデザイン** **あたりまえの継続が質の高いあたりまえへ** **居場所づくり**  
自己実現を支援 **「学び合い」「力合わせ」「つながり」** **「学び合い」「力合わせ」「つながり」** **「学び合い」「力合わせ」「つながり」**

1. 子ども同士がつながって学び合える学校  
学び合いの考え方を基盤に子どもに任せる授業づくり

2. 教職員のつながりで組織的な学校  
教育の質を高めるためにチーム力で働き方改善を進める

3. 保護者・地域とつながり合う学校  
保護者と向き合い子どもを育てる地域コミュニティの活用

**学校づくり**  
子どもが主役～「必要とされる自分」「誇らしい自分」「今ここにいる自分」  
新型コロナ感染症対策～心のケア、学力保障、学校の新しい生活様式

**学校経営の質を高める**

「社会に関われた教育課程」の実現を目指す  
・3つの質質・能力の育成  
「運動」「読書」「調べ学習」等、人権教育  
・安心して力を発揮できる学校づくり  
・目標を達成するために必要な教育活動の  
・チームで支える支援体制  
・強みを大切にし、各が「読む」「書く」  
・エビデンスのある支援と教育

・短い周期で検証改善  
・カリキュラムマネジメント  
・授業で子どもを変えよう  
・一人一人に未来社会を  
切り拓くための質質・  
能力を確実に育成する  
・心の育成、体の育成  
・教育職員研修  
・誰もが自分の考えを持てる  
環境づくり  
・失敗を恐れず粘り強く  
挑戦の安心空気づくり  
・安心して交流ができる  
集団づくり  
・アセスメントと予想的  
指導の教育相談

**授業づくり**

学び合い・振り返りを通して  
自ら考え主体的に学ぶ子どもたちに！

**学校の質を高める**

子どもが主役  
主体的・対話的で深い学びの  
授業  
学力向上につながる  
実践  
・主体的・対話的で深い学びの  
授業  
・学力向上につながる  
実践

**学校・家庭でふれない、同じ方向を見て指導する「よくわかる潮小」**

PTA・地域と一緒に子どもの課題改善  
「ゲーム・スマイル・ネット」指導  
幼稚園・小中高大のつながり  
・15年間を見通した教育課程  
・校内型キャリア教育

児童にとっては「明日も行きたい学校」  
保護者にとっては「明日も行かせたい学校」  
地域住民にとっては「頼りたい学校」  
職員にとっては「働きがいのある学校」  
※ 良質な「おせかい」「出しっぱり」

感染拡大防止に向けた学校の新しい生活様式や心のケア、学力保障など、社会の変化に対応した取組を加えたり、重点的な取組内容を見直したりし、児童、保護者、地域住民などが理解できるよう分かりやすく簡潔な言葉で整理した。

また、グランドデザインについては、全教職員で共通理解を図ることはもとより、家庭や地域などに広く周知し、共有化を図っている。

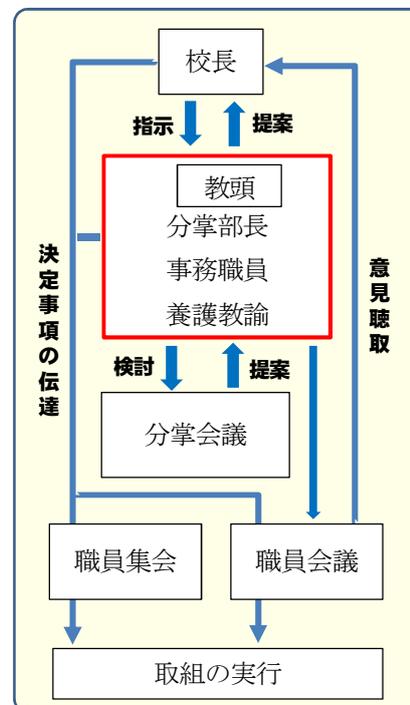
## (2) 教職員の学校経営に対する参画意識や協働意識を高める取組

### ○ 教頭を中心とした朝の打合せ

学校経営の中核となる教職員の学校経営に対する参画意識を一層高めるため、毎朝、校長、教頭、分掌部長、養護教諭、事務職員で打合せを行っている。打合せでは校長の方針に基づく業務の進捗状況や、支援を必要とする児童の対応状況など、様々な情報を共有し整理するとともに、改善が必要だと判断した場合は、課題解決の方向性や取組などを検討している。

また、打合せの中で検討した取組を校長が承認した場合は、放課後の職員集会等で全教職員に周知し、校長が分掌での検討を指示した場合は、各分掌で具体的な取組等について協議し、打合せ等で部長が取組の提案をしている。

このように、校長の方針に基づく取組を開始するまでの決定過程を明確にすることで、中核となる教職員に役割や責任を自覚させるとともに、学校課題に対して迅速な対応を行っている。



【校長の方針に基づく取組の実行までの過程】

### ○ ワークショップ型の協議を取り入れた会議

これまでの学年部長会議は、企画部からの取組の伝達及び共通理解が主であったが、今年度からは、企画部と学年部の役割や責任を明確化し、各教員の学校経営に対する参画意識や協働意識を高めるため、ワークショップ型の協議を取り入れ、校長の方針に基づく取組や学校の課題解決に向けた取組などを一緒に検討している。

このように、「分掌と学年」「分掌同士」「学年同士」「職員同士」で必然的に対話や共同作業が生まれる手立てを工夫し、実行するなど、教職員同士のつながりを大事にした学校経営を目指している。



【協議の様子】

## (3) 子どもの学びを保障する教育課程等の改善

### ○ 子どもの学びを保障する教育課程の見直し・改善

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組の中でも子どもの学びを保障するため、全教職員で育成を目指す資質・能力や重点課題を確認した上で、各教科等における重点単元の設定、指導内容の精選、必要な時数などを見直した。特に特別活動（行事）においては、「育成を目指す資質・能力」を見直しの視点として、必要な行事、取組内容、時数を精選した。また、取組内容を検討する際は、できない理由を考えるのではなく、目標を達成するために「何ができるか」を考えるように指示し、改善を図った。



### ○ 全教職員の指導力向上に向けた取組

中堅・ベテラン教員がこれまで培ってきた指導観や指導方法等を若手教員に伝える機会を設定し、相互の指導力の向上を図ることを目的として、次の取組を行っている。

- ・全教員が「実践のポイント」を踏まえた授業を公開するとともに、放課後等に授業について学び合う、授業交流を積極的に促進している。
- ・月2回程度、放課後の職員集会の時間を活用し、若手・中堅・ベテラン教員で構成したメンター研修や学年部会でのミニ研修を実施し、学習指導、生徒指導、保護者との連携等について学び合う研修を実施している。
- ・日常的に管理職や分掌部長等各学級の授業を参観し、授業者に対して「実践のポイント」を踏まえた授業改善について指導助言を行っている。



【授業交流の様子】

### 3 実践の成果（○）と課題（●）

- 会議等の工夫や効果的な研修実施など、人材育成を意識した積極的な学校改善を図ってきたことにより、中堅・ベテラン教員は学校経営に対する参画意識や協働意識、若手教員は指導力や指導力が高まってきた。
- 全教職員で育成を目指す資質・能力を共有するとともに、重点課題から「授業実践のポイント」を焦点化し、組織的な授業改善を推進してきたことにより、授業の質が向上し、児童の学習に対する意欲が高まってきた。
- 教育の質の向上を目的とする働き方改革を推進するため、各分掌等の業務や教育課程の内容等を見直したり、精選したりするなどし、教職員一人一人が担当する業務を遂行する時間を確保する必要がある。